

## 手羽先で骨格標本を作ろう！

所属：いきものひたち紀行  
氏名：戸室彰太

### ● どんな実験・工作なの？

みなさんは博物館でクジラやゾウ、ライオンなどの骨格標本を見たことがありますか？骨格標本は文字通り、骨だけを残した標本です。

今回は食卓でお馴染みの手羽先をもちいて、簡単な骨格標本を作ってみたいと思います。野外で動物の骨を探すのは大変なことで、簡単に手に入る手羽先は骨格標本入門に最適です。

### ● 実験の仕方とコツ

今回はニワトリの手羽先をもちいて骨格標本を作成します。手羽先は事前に肉をそぎ落とし、脂抜き、漂白、乾燥させてあるので、当日はそれをボンドで接着しながら組み立ててもらいます。小さな骨がいくつかありますので、なくさないようにしましょう。

#### 1.骨の組み立て

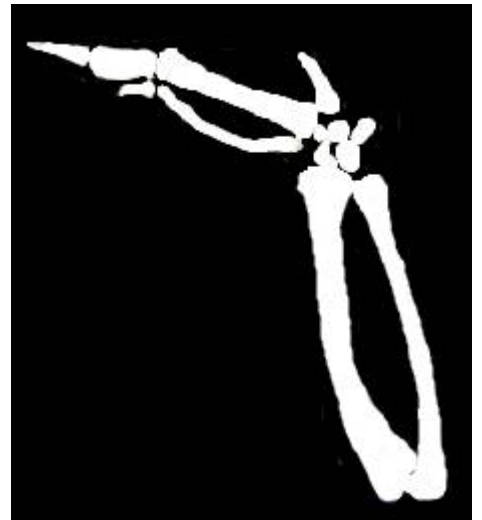
骨の名称と位置を書いた紙をブースに用意しておきますので、それを参考に組み立ててもらいます。工作用ボンドで骨と骨をくっつけたら、ホットボンドを使って骨と骨の間の軟骨を作ります。最後に骨格標本を台に固定して完成です。

#### 2.骨の観察・比較

作った手羽先骨格標本を観察し、他の生物の腕の骨と比較を行います。スタッフの学生が適宜解説します。

#### 3.簡単に作れる骨格標本の紹介

手羽先骨格標本の脂抜きや漂白の方法、手羽先以外の材料を使った骨格標本や昆虫標本について紹介します。



### ● 気をつけよう！

骨を接着する際、ボンドが手につくと落ちにくいことがありますので、ボンドははみ出さない位、気持ち少なめが適量です。ホットボンドの先端は高温になりますので、先端には触らないようにしてください。加えて、出したばかりのホットボンドは高温のため、手につくとやけどのおそれがありますので、軟骨部分を作る際には手の位置に気をつけてください。

また、脂抜きや漂白した骨はもろいので、折れてしまわないよう丁寧に扱う必要があります。

家庭で最初からやる際には、お湯によるやけどや漂白剤による手荒れに気をつけてください。

### ● もっと詳しく知るために

インターネットで骨格標本について調べると色々な作り方が紹介されていますので、それらを元に自分で色々工夫して作ってみてください。今回私たちは『骨の学校 僕らの骨格標本のつくり方』（木魂社）という本を参考にしました。なお当日に詳しい作成方法（骨の準備から組み立てまで）を載せた資料を配布します。